

〔曲名〕 Acquerelli Nordici suite

北欧のスケッチ

1.Verso l'ignoto

遙かなる未知の国への旅

2.Valzer Nostalgico

懐郷のワルツ

3.Danza Russa

ロシア舞曲

〔曲種〕 Suite

組曲

〔作曲者〕 Amedeo Amadei

アメデオ アマディ

〔編曲者〕 Jiro Nakano

中野 二郎

アマディ家はピエトロ(1809-1877) ロベルト(1840-1913) アメデオと三代続いたイタリアの著名な音楽一家で、

アメデオは海の組曲の作曲者として我々に親しい。

アメデオは始め父ロベルトに学び其後ボローニアのアカデミア・フィラルモニカでピアノ、オルガン、合唱指揮を修め、

40以上の作曲コンクールに入賞。

1889年歩兵第73聯隊楽長を拝命以来各地の軍楽長を歴任、退役後はトリノーに定住して、作曲家、指揮者として音楽界の各方面につくした。

作品も多岐に亘(わた)り管弦楽曲、吹奏楽曲、合唱曲、歌曲、ピアノ曲、室内楽曲、マンドリン合奏曲を含めて約500曲ある。

マンドリン合奏曲への創作は既に1897年頃から初められているが

1906年ミラノのイル・プレットロ主催の作曲コンクールに「プレクトラム賛歌」が受賞して以来判明しているだけでも90曲以上ある。

中でも海の組曲は応募曲81曲の中から一等に選ばれマルゲリータ皇太后の大金牌を与えられたことは名高い。

1935年彼の死を伝える報道の中に最後の作品がAcquerelli Nordiciという管弦楽組曲であることを知り、以来40年間その出版社を模索していたと云っても大袈裟（げさ）ではない。

昨年夏在伊の同志社大学マンドリンクラブの指揮者であった岡村君を通じ、アマディの未亡人及びその娘カルラに連絡がとれ、

再三懇願して漸く（ようや）出版されたこの曲を病床で眺めて逝いたとのことである。

旧アルモニア誌で沢口氏は本曲を「ノルウェイの水彩画」と訳しているが、

印刷された独、仏、伊、三カ国語の表題から私は之を「北欧のスケッチ」と改めた。

期待通りの佳曲であったのでカルラの了解を得て編曲したのが本曲である。

このことはまだ糾してないが作者は北欧に旅したことなくこの曲を書いたような気がする。

「北国指して」とか、望郷の思いを托したこの作品は既に作者は死を予知した者のように私は考えられる。

マンドリン古典合奏曲集第9集より